

連盟ニュース

296

神奈川 9

2009.9.8



題名：『ハツ峰の稜線を望む』場所：北アルプス・劔岳山頂にて 撮影：トリコシアキオ(<http://tory.com/>)

巻頭言	ハイキングリーダー学校委員長 増田 徹	2
定期理事会 開催のお知らせ		3
遭対部便り 2009年9月		4
「岩場でのセルフレスキュー」講習のお知らせ その1	救助隊	5
雪崩ビーコン机上講習会の報告	トラッカー編 講師 中山建生	6
登山者の自覚、そして自己責任論として主張される内容	中山建生	7
ハイキングリーダー学校活動報告		8
登山者のためのヤマビルシボジウム報告	大用ユキ子	8
登山者のためのヤマビルシボジウムに参加して	川崎HC 八島彰子	9
国民の審判は新しい政治を求めた、私たちの今後は如何に	中山建生	10
第21回海外登山集会のお知らせ		11
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定		12
登山時報紹介/労山カレンダー申し込み受け付け		13
県連のスケジュール/全国会議行事予定		14



神奈川県勤労者山岳連盟
〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階
発行責任者 後藤 真一
TEL/FAX 045-434-2726 <http://www.k-rouzan.net/>

巻頭言

ハイキングリーダー学校委員長 増田 徹

私が山と関わりを持つようになったのは、さていつの事だったかと、今となっては思い出すことが出来ない。そもそも私が生まれ育った場所、そして職業も凡そ山とは縁遠い所にあった。しかし時に人は、自分の世界とはまったく別の世界にひどく憧れる事があると言うが、私もまた、たわいも無い動機から、山への興味を抱くようになって以来、随分と年月を重ね、今日に至っている。

その間と言うもの、無為に過ごして来たせいもあってか、山に関しての事柄を人様に語る程のものは持ち合わせてはいない。勿論、ときには小さなホールドにしがみ付き、頭の中が真っ白になってしまっ、随分と怖い思いをして攀たことも、幾たびか体験はした。しかし、それとて豊かな経験者から見れば、所詮『チョロイ』所であったに違いない。

山屋は登(攀)って何ボの世界であるらしい。であれば、私など未だに保育園児の域から抜け出せない有様である。

もう、随分と以前の事になってしまったが、碇泊時間が長くなったり、休暇にでもなれば、手近な山に出かけ、そのドッシリとした大地を踏みしめて歩く安定感がたまらなく嬉しかった。だから機会を見つけては、かなりの所まで行ったつもりだった。

あるとき、そんな自己満足を胸に、雑誌で見た山会に、連絡して入れてもらった。が、入会してみて、しみじみ思ったものである。自分が登った山とは、せいぜい裏山程度だったのだなと、悟ったからである。当時を思い出すと、未だにホロニガイ気持ちになる。

そのような記憶の中で、もっとも最近のものとしては、群馬県上野村の「マムシ岳」と呼ばれる、聞くも怖ろし気な標高1.000m程の山へ、地元の人に声を掛けてもらって行く機会をえた。その名の示す通り、ルートには、本当に蝮が多いと言う事で、登り

はしなかったが、昭和の30年代の前半まで、奥深い山中を生活の場としていた人々の集落の跡を辿り、その先に在る「シオジ原生林」を觀に行こう、と言うものである。

沢沿いの獣道の様な、僅かな踏み跡らしき所を歩けば神流川の源流の一つとも言うのだろうか。北沢・萩沢・板沢・細尾沢と、土地に明るい人が教えてくれた。

その他にも、幾つかの小沢を渡り歩き、時たま平坦な場所に出ると『ここにも4、5軒』の家が在ったとか、50~60m四方の平坦地には『分教場の跡だ』と教えてくれた。その度に、当時の過酷で不便な生活の様子を勝手に想像して、ため息を洩らしたりした。

『この辺りに炭焼き窯が余けい在ったんだ』と同行者は言うが、その場所がどこなのか見当も付けられないでいる。気が付くと足元に、黒くなった胡桃の実が沢山落ちていた。その中に混ざって、栗に似た実もあった。それを拾って『これは何ですかねエ』と尋ねると、『ん？そりや、栃の実だよ』とのこと。『えッ？トチの実って、あの煎餅とか、栃餅のあれですか。』『そだよ』

『トチの木ってどれがそうなの？』『えっとなあア、一寸上の方に在る、あの太いのがそおだと思うんだが。あア、この太いのもそだね。』と教えてくれた。そして、その人が、太い幹を軽く叩きながら言った。桃栗三年、柿八年、柚子の馬鹿やろう13年なんて言うけどネ、栃の木が実を付けるには40年もかかるんだヨ。だから、こんな大木になるんだねエ。と、『昔は、クル実も、栃の実も、この辺の人たちには大切な食料だったんだな。』と、太い幹をさすりながら語ってくれた。昭和の30年代と言え、私の年代からすれば、それほど昔とも思えないが、機械力の無かった時代は、伐採された巨木を一体どのようにして搬出していたのか等と歩を進めなが

ら尋ねてみたが『それはもう、想像を超えた苦労だったろうねエ……』としか言い様が無いようであった。

聞けば、その昔上野村は、幕府の天領が多かったとか。その為に伐採のお達しが出れば只それに従うしかなかったのであろうか。

シオジ原生林は風も無くとても静寂だった。濃密な空気が辺り一面に満たされていた。小鳥も気遣ってか、その囁きさえ時折にしか聞こえず、踏みしめる靴音も分厚い腐葉土に吸収され、足にとても優しくかった。『この沢はね、落ち葉が分厚く体積しているもんだから、どんな大雨になっても、水が濁らないんだよ』と話してくれたが、為るほどナ、と十分に納得できた。

私は、話の折々に、同行者の「天領」と言う言葉に、もしやと思い。『御巢鷹山って、あの山もひょっとして徳川家の、鷹狩用の雛を捕獲する場所になってたとか?』と尋ねてみた。すると案の定『ああ、そうだよ、(ヤッパリ)ウン。だから、昔はあの辺りには、無闇に近づけなかったんだらうね。』と、思った通りの答えが帰ってきた。

鷹の巢の頭に御、を付けて御巢鷹山と名称するとなれば、さも有なん。とこれで合点が行った。思えば、上野村は日航機事故から早20年余の歳月を経てはいた。折から、犠牲者の方々を悼む慰霊の日を目前に

していた。御巢鷹山の慰霊の碑に至る案内標識が要所要所に表示されていたのを目にすれば、当時のことを今更のごとく思い返される。

村の人口からすれば、普段どおりかも知れないが、走る車の数も、人の通りも少なかったが、どこか張り詰めた緊張感是十分に伝わって来た。

同行者に当時の様子を訊いてみたいとは思ったが、そのような大事を軽々しく話題にするものではない。との思いがあって、言い出せなかった。帰途、御巢鷹山の頂上と思しき辺りに目を向け車中から短い目礼をした。

もう、上野村は、慰霊の日を迎える準備が、すっかり整っていた。



2009年度下期定期理事会 開催のお知らせ

日時 2009年9月13日(日) 13時~17時30分

場所 かながわ県民サポートセンター
1501会議室

議題 2009年上期活動報告
2009年下期活動予定

遭対部便り 2009年9月

8月17日(月)、25日(火)の2回、ビーコン講習会を行ないました。今回は変則的にビーコンの機種別の講習会としました。理由はビーコンの原理から話していると、短時間の講習では使い方の説明が充分できないからです。昨今はデジタルビーコンが主流ですが、その使い方が充分理解されているようには思えません。また現実の事故に当たって、より多くの人命を救助するためのスピードアップが要求されています。そのためには機種の特長を理解して使いこなすことが必要なのです。今回は機種別としたことで使用法や注意に関してそこそこの説明ができたと思います。参加されなかった方も、参加された方から話を聞くようにしてください。また参加された方は練習行なって確実にビーコン操作を身につけるとともに、他の講習にも参加して雪崩事故の防止、救助方法など一連の技術を身につけるようにしてください。

他の講習会、訓練として以下のものを紹介します。

全国労山主催雪崩学校

全国が行なう雪崩学校です。コースがいくつかあり、参加には条件がある場合もあります。

労山関東ブロック主催雪崩学校

関東ブロックが合同で行なう雪崩学校です。全国主催のものよりは敷居が低く、参加しやすいと思います。内容は雪質観察、雪崩の評価から、ビーコン捜索です。机上と、実技がありますが、机上のみの参加も可能です(実技参加には机上の参加が必須です)。

県連救助隊の冬山捜索訓練

県連救助隊の訓練の一環として行われるものですが、救助隊員以外の参加が可能な回もあります。捜索～救助～手当・搬出までを行ないます。

県連遭対部主催ファーストエイド講習会

雪山とは直接結びつきませんが、救急処置に関して一通りのことを学ぶことができます。

今後の講習会の予定

ファーストエイド講習会を来年2月に実施する予定です。好評のため毎年行われ、何度も参加される方もいるくらいですが、時間の制約から教え切れてないことは山ほどあります。そこで今年は上級編を計画したいと考えています。上級編といっても、難しいわけではありません。例年の講習会では教えきれなかった内容や実技を中心に行いたいと考えています。

県連遭難対策部に対するご意見、要望はお近くの遭難対策部員か、下記の連絡先をお願いします。

遭難対策部連絡先 メール：kanagawa_soutai@yahoo.co.jp

FAX：050-3488-3765 (遭対部宛であることを明記してください)

「岩場でのセルフレスキュー」講習のお知らせ - その1

2009年度の救助隊「岩場でのセルフレスキュー」講習を、下記の要領で開催します。
詳細については10月号に掲載する予定です。

日 程 11月7日(土)～8日(日)・・・できるかぎり2日間受講してください
場 所 未定(丹沢または近郊の岩場)
内 容(案)

1) 初級

初心者～初級者を対象とします

- ・ビレイヤーの自己脱出
- ・ロープ登り
- ・1/3システムでの負傷者の引上げ
- ・負傷者の引き下ろし
- ・負傷者を介助してのラペル、負傷者を背負ってのラペル など

2) 中級(応用技術編)

中級者以上を対象に、技術研究会として実施する予定です

- ・カウンター・ユマール
- ・カウンター・ラペル など

募集対象

神奈川労山 救助隊員

同 リーダー・学校生(初級、中級)

同 加盟各会の会員(岩トレ経験者に限ります)

参加希望者は各会の救助隊員、又は救助隊事務局まで申し込んでください。

救助隊事務局 : 宮澤 haru3miy@orchid.plala.or.jp



雪崩ビーコン机上講習会の報告 トラッカー編

2009.8.25 講師 中山 建生

8月17日19時より神奈川県民交流センターにて雪崩ビーコンの机上講習を行なった。前回のまとめから機種別講習が望ましいとして最初はトラッカーの普及が多いことからこのビーコンの特徴を生かす方法を講義の中核に据えた。

トラッカーの特徴は受信を開始してからピンポイントまで二次元解析を行い、方向の表示と距離の表示をする。ただし後に触れるように垂直、つまり三次元の検索機能を持たないため、ピンポイントでのまごつきがみられる。最新のビーコンがトリプルアンテナの各機能を働かせて垂直方向を探るのに比べて発見までの時間に差が生ずる。理屈の上では検索側が三次元対応をすればいいのだがなかなかうまくいかない。取り扱いの単純さと表示の一貫性が使う側に安心を与えている。さて受講生のアンケート結果をまとめておこう。

内容に関する記述は以下のようにまとめられる。「実体験をもとにしたアドバイス、説明が良かった。救助に必要な道具についても分かりやすく参考になった」とし、次回は他の仲間にも参加させ、野外実習の機会があればぜひ参加したいとしている。他の講習に関する希望としてビパーク体験を試みたいと書かれていた。

また今日の話から「本気になって練習しなければ使えないことも分かった」と率直に書いている。県連盟が多くの会員、登山者の要求を実現するなら一層の信頼を得、雪崩事故防止に貢献することになる。安全教育に関する机上、実習に関して年間計画を立てて準備をしこれに臨むといい。テキストも事前に配布され受齎する生徒も目を通しての参加となり一方的な講義とならず

に成果をあげたものと思う。準備をきちっとした成果であった。

8月25日19時よりピープスDSPの机上講習を予定している。ふたつの講義の比較から一層最新のビーコンの特徴が分かるものと思う。事務局スタッフに感謝したい。

ピープスDSPの特徴は複数検索時に信号の遮断をする横能を働かせると、埋没者の信号を順次減らし紛れを少なくすること、ある範囲(50m)内をスキャンして何人がどの辺りに埋まっているかの見当をつけることで、搜索側の心理的な負担と信号の識別をしないで済ませるため発見が容易である。最新のビーコンは垂直方向を探るための三本日のアンテナが内蔵されていることでピンポイントの搜索をより明瞭にしている。このことを理解しておかないとビーコンを左右に上下に振ってしまうと受信感度が変わり解析を後らせてしまうか、混乱させてしまうからよく理解しよう。最新のビーコンはアナログ式と比べると「ビーコンを振って強い信号を探す」ことから基本的な動作は「ビーコンの解析に任せゆっくり表示を待つ」というふうに変えなくてはならない。そして振り幅がアンテナの配置に合わせて狭くて良い。いずれにしても机上学習と野外実習をセットに行なうことを勧める。また雪の中での体験は一連の流れを身につける上で欠かせないものと思う。各自その準備をされたい。適当にやっついては使いきれず、つまり生存救出ができないことを正しく認識しておかなくてはならない。最新のビーコンの特徴を印したテキストは遭難対策部に渡してあるのでまずは入手して目を通しておくことが肝心となる。

ビーコンについての開き合わせ

連絡先 電話045-931-2291 FAXもおなじ(社)日本雪氷学会会員 雪崩研修会講師

(8月号の続き)

登山者の自覚、そして自己責任論として主張される内容

2009.7.25 神奈川 中山 建生

遭難対策関係者や警察が指摘する登山者の自覚とはなにを意味するのだろうか。この言葉の意味を考えると「登山者自らが山に登る」という意識、姿勢を明確にすることを勤労者山岳連盟が創立以来今日までかけた哲学である。過去、何度も全国レベルでも地方連盟レベルでもこのことを指摘してきた。「自分の意志で登る」のが登山の真価である。この言葉の対極にあるのが「連れていってもらう」という意識のまま登山をすることである。最初のうちは自分で登るといっても優れたリーダーの下で安心して登山をすることになり、心の一部には連れていってもらおうという意識が入り込むのは自然である。勤労者山岳連盟は経験と学習を重ねる中でやがて自立した登山者、つまりリーダーとして育てて行くことを求めた。それは彼らが次の世代の教育に責任を持ち、時代に即応した組織や活動を組み立て登山の普及と発展向上に力を尽くすためである。ここには自分が自立するという意識が必要となる。今日、この自立の意識が育たず、受け身の姿勢が登山者としての自立を妨げ、自らの行動にも責任を持たない、待てない登山者が生まれている。この原因の一つは山岳会の教育活動の低迷と社会的な使命を活動のなかに組み込まない閉鎖的な体質に目を瞑っていることにある。これを食い破ろうとする山岳会もあるが、多くは前述したような環境下にある。自己責任論はこうした現実を反映して、山岳会やリーダーの責任を問われないための予防線として張られることがしばしばである。本来の意味での自己責任を明確に問うものでなく歪められ責任放棄の理論となりさがっている。彼らはこう主張する。遭難事故でリーダーの過失と責任を問われると「登山は個人の責任で行なうものでリーダーの責任を問うのは間違いです。登山とは危険なスポーツです。これをお互いに認めてやって

いるのです。責任は私どもにありません」という。ある裁判では事故の原因となった調査の欠如、慣れからくる手抜き、根拠のない安全神話などひとつひとつ指摘すると、登山界ではそんな面倒なことはしないという。おかしな事に配布された要項にはひとつひとつ安全のために実行するとした内容である。これを指摘すると実践的な登山ではこうしたことは必要ないと言い逃れる。山岳会の指導者のレベルがこの有様である。裁判を傍聴した人達は登山者の常識は社会の非常識と呆れるばかりであった。事故が起きても反省を語らず素人には分からないと勝手な理屈をいい、これが通らないと所謂、自己責任論を持ち出してくる。これも通らなくなると学術的な証明がないと訳の分からない主張をする。山岳会のレベルでも予測できない天候の急変、過去に類例がない(調べもしないのに)と始まり行き着くところは自己責任論である。登山行為に自己の責任がないと主張しているわけではなく自己責任を主張するならば自己責任の範疇にあるのかを明確にしなくてはならない。天候が悪化するなかこの先の予想も確かめずに雨の中を、雲が降る中を行動させ疲労凍死した事例。体調を崩した参加者を放って先に行きばらばらになった事例。テントを締め切ってコンロが火を吹き火傷した事例。冬山でポンチョを被せて行動させた事例。アイゼン、ピッケルの訓練をせずに急斜面を下らせ滑落した事例。濡れた岩場で確保せず不安を訴えた参加者に行けと指示しケガをさせた事例。ルートを確認もせず迷ってもここだと主張しビバークした事例・・・結果、事故が発生。リーダーの間違った判断、過失を繰り返したリーダーには責任がないと主張する。普通に考えればだれもおかしい、間違えていると答える。が、自分が当事者になると態度は急変する。彼らの主張する自己責任論の背景事実である。だからこう主張する登山者に対して自覚に欠け社会性と常識がなく倫理感を持たないと指摘される理由である。



ハイキングリーダー学校活動報告

7 / 16 机上 ハイキングにおけるセルフレスキュー

事故の傾向、状況からどうしたら防げるか、予防技術、早めの危険回避対策、応急処置、救助要請を学びました。その後、止血法、テーピング、三角巾の使い方を実技で行ないました。

(清藤) 受講者7名 講師3名

7 / 26 鷹取山岩トレ、地図読み

雨天中止となっていた岩トレでしたが、沢に行く前に計画できました。

最初は緊張していた人も慣れてくると、楽しさや厳しさも理解できるようになりました。その後、神武寺駅まで地図読みをし、新逗子で反省会をしました。

(増田) 受講者6名 講師3名

8 / 9 葛葉沢 沢とはどんな所、楽しさや、危険性を知り安全に登る。

装備を付けて点検し、自己紹介をして参加者の確認を行う。注意事項を伝え準備運動をし、2班に分かれて出発する。天候不順な日が続いているので水量は多い。入溪

者は少なく順調に登り、昼前には大平橋に着き昼食にする。午後は林道を下り、大倉のビジターセンターで反省会を行い、早めの帰路に着く。

(加藤) 受講者6名 講師6名

ハイキングリーダー学校 葛葉沢

横浜ハイキングクラブ 長井 美江子

初めての沢体験だったが、前回の岩トレでハーネスの装着方法やロープワーク、安全の確保等を学んでいたのでスムーズに取り組みた。装備品を紛失しないようにシートの上に備品を置いて準備する事を教わった。

沢に足を入れたとたん、濡れる事を恐れて石を探して歩いたが講師の方を見るとジャブジャブと水の中に入っていられるので、思い切って腰まで入ったら楽しくなってきた。

これが沢の醍醐味なのかと思った。

ホールドを小さく取るように指示があったが、頭の上から滝のような水を被ると焦ってしまい早く登ろうと遠くの大きなホールドを掴んでしまった。

今回学べたことは、これから安全に山行する為にとても有意義で勉強になりました。

「登山者のためのヤマビル・シンポジウム」報告

当日の8月30日は台風接近の影響でときおり雨が降り出す不安定な日でしたが、会場の県自然環境保全センターレクチャールームには40名が参加しました。会場には、毎日新聞社の記者も見えていました。労山からは9名が参加しました。午前中は岩美光一(県自然環境保全センター研究部長)より、ヤマビル2年間にわたった研究調査の内容が講演されました。

調査研究のまとめから

生理・生態

ヤマビルの温度耐性は低温は-5、高温は41 耐性傾向は大ビル>中ビル>小ビルの順

朝夕に活発で11時~15時にかけて不活発(ただし降雨日等は終日活発)

活動時期は3月~11月、12月~3月

には落ち葉や石の下に潜んで越冬 寿命は1~2年

獣道の1m以内に多く生息している。

生息分布と拡大要因

生息は周辺に拡大している。吸血済ヤマビルの80%からシカ、イノシシの血液が検出

拡大要因はニホンシカの保護管理政策と造林政策が別々に推進された。また化石燃料による里地、里山の利用衰退が野生動物を里山域に進出させたと推察される
防御対策

基本的な防御対策は野生動物の適正な密度管理

草刈や落ち葉掃き等は効果あり(落ち葉がないとヤマビルは越冬できない)

忌避剤として、アルコール(50%以上)食塩水(20%以上)食酢(酢酸度4.3%)虫除け剤(ディート製剤)の効果が高い

これらの薬剤等を散布し乾かして使用する

ると効果の持続性が高い
ヤマビルの天敵（ポーベリア菌 フザリウム菌）
等、パワーポイントで沢山の調査研究の内容が話されました。

この2年間でヤマビルについてかなりの部分が解明され、その結果から対策が、早急にやればヤマビルの拡大を防げるとのことでした。まずはシカやイノシシを適正な生息数にすることが、最大の解決策のようです。今日の講演で自分自身ヤマビルについて知らなかった事や間違えて聞いていたこと等が解り大変勉強になりました。これで相手（ヤマビル）を知ったことで、今までは逃げてばかりいましたが少し抵抗力が付いてきましたので、ヒル駆除作業などの情報があれば参加し、手伝おうと思いました。

後半は、北丹沢山岳センターと労山がヒル被害の現状報告発表をしました。

午後からは、樋田・田中（FSC）氏のガイドにより保全センター周辺の観察会が開催されました。観察の湿地には、シカの足跡があったり、ヤマビルもいて、好かれた人もいました。

「ヤマビル・シンポジウム」発表報告の為にヤマビル情報を労山の会員の方から沢山いただきました。有難うございました。岩美光一氏の講演は登山者にとって、大変役に立つお話でした。詳しくは県のHP（全報告掲載）をご覧くださいと思います。

大用ユキ子

登山者のためのヤマビルシンポジウム参加して

川崎ハイキングクラブ 八島 彰子

5月30日のクリーンハイクに見かけたヤマビル、怖いもの見たさ知りたさに参加しました。ヤマビル、その生態と防除について、県自然環境保全センターの岩見光一さんより、2年間ヤマビルの生態を調べている、その報告を聞きました。

ヤマビルの平均生存年数は1～2年、活動

時期は3月～11月、1日の最低温度が10以上、湿度60%以上、気温20以上の雨が雨上がりの天候がもっとも活発、6月～7月と9月～10月が子ビルが多くみられ吸血被害も増加との事です。また、12月から3月には落ち葉などの下で越冬する。ヤマビル1匹あたりから生まれる小ビルは平均10～15匹/年というのは意外でした。

ではなぜ、最近多くなってるか、というと、やはり鹿やイノシシなどヤマビルの餌となる自然動物が増え、山が荒れてきているのも一因とか、試しにヤマビル生息地に柵を作り、動物が入れなくしたところ1ヶ月～2ヶ月でヤマビルは1匹も見つからなかったそうです。また、ヤマビルの天敵は自然界にある糸状菌の1種であるポーベリア菌、フザリウム菌との事だが土が豊かでないと繁殖しない、自然動物を減らせば山も豊かになるというが、また、登山道にしきつめたチップも冬も暖かくヒルが繁殖している一因とも考えられてるとの事である。

いずれにせよ私たちはヤマビル被害を少なく、予防しなければなりません。山に入る前、靴はゴム長靴が良いらしい。ヤマビルを見つけたら塩が1番、はさみで切るのもOK、20%～25%の塩水スプレー、消毒用エタノールなどをかける。予防としてはヤマビルフアイトを濡れるほどスプレーしよく乾いてから身に着けること、この際1/2に薄めても効き目は変わらないとの事、ヤマビルは見た目小さく、得度も知れず血を吸うヤツということでその生息地には近づきたくないけど、生態を良く知り、予防をしての山歩きをしたいものです。ちなみにヤマビルは、餌となるものに気づき動き出すまで3～5分かかるそうです。団体で歩いていると前の方は被害が少ないそうです。なるべく、素肌を出さず袖口、脚口など硬めにかため、5分以上立ち止まらず、地下に腰掛けず塩を持って歩きたいと思った。今回参加して、鹿や狸、イノシシなど自然動物が増えすぎて山とのバランスが崩れてる。人の手を少しかけて、放置された農地や林の下刈りをし空気のとおりを良くしなければいけないと感じた。

午後は、野外施設のミニ観察会に参加、美味しい匂いのする落ち葉を楽しんだり、初め

て目にするツチアケビをみたり、鹿の足跡をみつけたりちょっと得した1日でした。

国民の審判は新しい政治を求めた、私たちの今後は如何に

2009.8.31 副会長 中山 建生

8月30日国政選挙の結果はこれまでの政治に決別して新しい政治を求め、民主党に期待を寄せた。自民・公明両党による国民不在の政治は社会的不平等、経済的格差、貧困、差別を拡大し、世界の平和への希求に背をむけ、国際的な環境悪化に先進国としての役割を果たさず、進歩と改革にも背を向けた行動に対して国民から鉄槌を受けた。

さて今後成立する民主党を中心とした政権には期待と不安が入り交じる。掲げた政策の実現を実行するためには予算と人材が必要となる。予算の見直しは当然にされるが、組み替えだけでは将来に渡る政策実現は困難であろう。当座は消費税を上げないとしているが、将来にわたって消費税を上げないとは明言しない。また見込みのない国債の発行など国民に付けを残すやり方にもはっきりとした方針を打ち出していない。ここに不安があるがこれからの出発となる。

現実の政治の切り替えはこれまでの政権の残務整理に1年から3年、これと平行して政策実現に手を付けるだろうが具体的な形になるにはやはり1年以上先になるかと思う。国民は民主党に期待をした。が、従来の自民・公明の政権にきちとした批判や意見、つまり意思表示をした私たちの態度次第で政策実現の方向と内容が決まる。民主党と言えども自民党と同じような考え方をする集団は大企業の利益を守る立場から国民の利益に関心がない。憲法9条を変えて戦争の出来る国を目論む人達は平和の実現に背を向ける。いわゆる核の傘に入るといふ人達の主張である。今回の各党のマニフェスト(政策)に文化やスポーツに関しての具体的な政策は示されていない。たとえば国や地方自治体に取り組むべきはスポーツ環境の整備や財政的な支援であるが、日本のスポーツ関連予算は貧弱で後進国並みである。人間にとってのスポーツを身体と精

神の発達に欠かせない価値と正當に評価しないため、だれもがスポーツに親しむことが出来ない。スポーツを楽しみ、実行出来ない人にこれを個人の責任とする歪んだ思想を振り撒いてきた。登山を例に考えるとき、登山口にトイレと更衣室、ビジターセンターなどの設置から、安全指導や情報の提供、マナーの向上、環境保全などを進めるためのソフト対策が必要である。山岳自然の保全と環境維持には必要な財政措置と人材の養成をしなければならない。遭難対策と救助体制の整備も国任せではいけない。山岳団体は社会的な使命と役割を自覚して積極的な活動に取り組みなくてはならない。これは先に触れたスポーツの価値を真に高めるためである。スポーツ環境の整備とは単に予算を付ければよいということではなく、人間の生活を豊かにするためにどうするのかである。今日の山岳遭難事故の多発は登山の実現に多くの矛盾や問題が表出した結果と考える。現実をリアルに見つめて山岳団体も自らの要求とつなげて、今後の政策実現に関わらなくてはならない。山に登るだけでは世の中を変えられず、旧態前とした世界を黙認する傍観者にすぎない。一票を投じた責任は終わったわけではないと思う。だが、こうした指摘はすぐには実現しない。会や連盟に対しての要求と批判が百花繚乱のごとく盛り上がってこそ生きた実感が持てる。時代の切り変わりを感ずる今、皆さんは登山に関して、会に対して、連盟活動に関して当事者である。自らの生き方が今後の将来と関わってくる良い機会である。少し自分のまわりに、周囲の人達に、神奈川の出来事にと目を、体を引き付けてみよう。どうせ生きるなら熱く燃えて生きたいと思う。8月は特別な月だと思ふとある人に伝えた。日本の敗戦に、原爆の投下から平和への希求と実現に立ち上がった月であった。そして今、自民・公明の政府与党から政権が委譲した。登山を楽しむものたちが志と意欲を示して時代の改革を進める集団となることを願う。

第21回全国海外登山集会のお知らせ

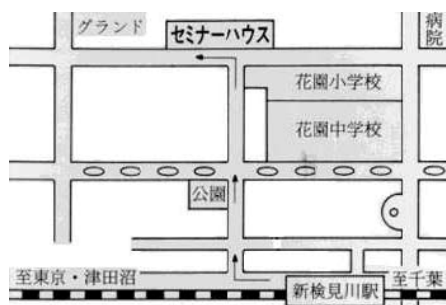
全国連盟・海外委員会

第21回・海外登山集会を下記により開催します。今年は、千葉県連盟が総力をあげて、歓迎の準備を進めています。

会場は、JR総武線・新検見川駅から徒歩10分、緑に囲まれた東京大学の検見川総合運動場です。遠方からの参加の皆様には、羽田空港・東京駅からも大変便利な会場です。大勢の皆様の参加を心よりお待ちしております。

記

- 1、開催日 2009年11月28日(土)13時より29日(日)12時まで
- 2、会場 東京大学 検見川総合運動場
- 3、記念講演 大蔵 喜福氏(マッキンリーでの気象観測・環境問題などで活躍中)
- 4、参加費 宿泊参加 8000円(懇親会込) 1日参加 1000円(資料代のみ)
- 5、アクセス JR総武線新検見川駅下車徒歩10分



東京駅(JR総武線快速) 津田沼・乗換え(JR総武線千葉行) 新検見川駅下車
 羽田空港(京急本線) 品川・乗換え(JR総武線快速) 津田沼・乗換え (JR総武線千葉行) 新検見川駅下車

参加申込み(所属会・参加者名・電話番号・Eメールアドレスを記入願います)

郵便: 162-0814

東京都新宿区新小川町5-24日本勤労者山岳連盟・

海外委員会 / FAX: 03-3235-4324 Eメール: jwaf@jwaf.jp

問合わせ先: 広木国昭[090-8316-2020] Eメール: danphi.ro@zpost.plala.or.jp

第21回全国海外登山集会参加申込書

参加者氏名: _____ 男性 女性

参加者所属会: 地方連盟名 _____ 所属会名

参加者住所: 〒 _____

:

電話番号: _____

Eメール: _____

参加種別下記の番号のいずれかに をしてください。

1泊2日(8,000円) 宿泊、食事、交流会費、資料代込み

宿泊なしでの参加、両日または1日だけ参加(1,000円) 資料代

上記の宿泊なしで交流会は参加(5,000円) 交流会費、資料代

28日の交流会のみ参加(4,000円) 交流会費

申込み締め切り11月5日(木)

参加申込み先・方法この参加申込書にて(8月号に掲載しています)

下記に郵便・FAX・Eメールで申し込み下さい。

〒162-8814 東京都新宿区新小川町5-24

日本勤労者山岳連盟海外委員会気付 / FAX 03-3235-4324

Eメール jwaf@jwaf.jp

参加費振込み先 郵便振替口座

口座番号 00140-5-563328

加入者名 労山行事事務係

通信欄に「第21回海外登山集会」・所属団体名と参加者名を必ず記入願います。

海外登山集会へのご意見、ご希望をお願いします。

神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

川崎勤労者山岳会

報告：小池 秀子 計43名(男27 女16)平均 歳

8/1 鷹取山(2)	8/12-13 餓鬼岳(2)	8/22-23 小川山(1)
8/2 " (6)	8/12-15 奥穂高岳(6)	8/23 奥多摩・越沢バットレス
8/6-11 北アルプス裏銀座(2)	8/12-15 屋久島・宮之浦～縄文杉	(4)
8/6-11 穂高岳・屏風岩東壁(4)	(1)	8/29 奥多摩(1)
8/8-10 小川山(3)	8/16 小川山(1)	
8/10-16 穂高岳・屏風岩東壁(2)	8/21-25 朝日連峰(1)	

川崎ハイキングクラブ

報告：二瓶 誠 計101名(男50 女51) 平均62歳

7/15-18 焼石・高松岳/東北(2)	8/1 入笠山/信濃(2)	8/12-16 穂高岳/北アルプス(6)
7/17-20 越後三山/新潟(10)	8/1-3 鳥海山・羽黒山/東北(8)	8/13-17 穂高岳/北アルプス(2)
7/18 明神ヶ岳/箱根(7)	8/2 滝山丘陵/八王子 例会山行(1	8/15-17 鳳凰三山/南アルプス(12)
7/19 松田山/丹沢(4)	4)	予定
7/23-25 鳳凰三山/南アルプス(6)	8/3-5 伊吹山/滋賀県(3)	9/6 矢平山/山梨 例会山行
7/24-28 旭岳・北鎮岳・黒岳/大雪	8/6-7 唐松岳/後立山連峰(1)	9/12 池ノ平・竹の植物園/伊豆
山(8)	8/8 櫛形山脈/飯豊周辺(1)	9/13 日の出山/奥多摩 教育山行
7/24-28 裏銀座縦走/北アルプス	8/8-9 水無川/丹沢(5)	読図
(1)	8/8-9 那須岳/那須(1)	9/16 棒ノ折山/奥多摩
7/25-29 白山/岐阜県(4)	8/8-10 白峰三山/南アルプス(2)	9/27 雨降・権現・扇山/中央沿線
7/25-28 秩父沢・引折岳/北アルプ	8/9 葛葉沢/リーダ学校(1)	9/27 今倉山/道志
ス(1)	8/9-10 八甲田山/八甲田(2)	10/11-12 鷹巣山/奥多摩 秋山交
7/26-27 富士山(1)	8/11-16 表銀座縦走/北アルプス	流山行
7/26 滝子山/大菩薩(3)	(4)	
7/28-30 大朝日岳/東北(4)	8/12-14 西穂高/北アルプス(6)	

川崎柴笛クラブ

報告：雪竹雅士 計32名(男19 女13) 平均48歳

8/1-2 針の木谷	8/8-9 釜ノ沢西俣 1+(7)	8/15 小金沢連峰一大菩	8/22-23 涸沢 1+(1)
8/1-2 川乗谷・火打石谷	8/10-12 大日 1	薩峠 1+(1)	8/23 三つ峠 2
4	8/7-13 剣 3	8/15-18 薬師岳・雲ノ平	8/25- 小川山 1+(1)
8/1-3 トムラウシ山 1+	8/9 富士山、河口湖ルー	1+(1)	8/26- 槍ヶ岳、北穂高
(1)	ト 1	8/15-17 北穂高岳 東稜	岳 2
8/1-4 甲斐駒ヶ岳ダイヤ	8/9 塔の岳 3	1+(1)	8/28- 一ノ倉沢中央稜
モンドAフランク 3	8/12-15 剣、八峰 1+(3)	8/16 裏妙義 1	3
8/1 塔ノ岳・表尾根 1	8/13-15 北岳 間ノ岳 農	8/17 大菩薩 2	8/29- 丹波川流域「丹
8/2 塔ノ岳・表尾根 1+	鳥岳 1	8/29-9/2 雲ノ平から槍ヶ	波川本流」3
(1)	8/14-16 白馬岳 1	岳 1+(1)	8/30 水無川・モミソ岩
8/7-9 劔岳 2	8/14-15 北岳 1	8/21-23 赤木沢 5	12
8/8 塔ノ岳・大倉尾根 1	8/14 富士山 1	8/22 奥多摩・越沢バツ	8/30- 八ヶ岳 1+(1)
8/8-9 白馬岳 1+(1)	8/15 吾妻 1	トレス 1+(1)	

横浜ハイキングクラブ

報告=池上準子 計58名(男21:女37) 平均60歳

8/8 富士山 5 合目(12)	9/13-15 霞沢岳・上高地	沢・奥穂高	～三頭山
8/13-15 甲斐駒・仙丈岳	～霞沢	10/4-6 上高地-横尾-涸	10/24 丹沢ヨモギ平(読
(7)	9/20-21 白樺峠・鷹渡り	沢	図山行)
8/20 室内例会(39)	見学と乗鞍	10/8 室内例会	
8/23 箱根・西岸歩道	9/27 高水三山	10/16-18 餓鬼岳-燕岳	
9/10 室内例会	10/3-6 上高地-横尾-涸	10/18 三頭山・都民の森	

横浜こぶしの会

報告=田辺美由紀 計27名(男18人 女9人) 平均52歳

8/1 天城山(4)	8/20-22 針ノ木岳(2)	8/30 焼岳(4)	9/26-27 こぶし祭り
8/1 源次郎沢(5)	8/21-23 小川山 中止	9/18-21 大深沢	10/9-12 朝日連峰
8/7-10 羅臼・斜里他(5)	8/21-22 小川谷廊下(4)	9/18-21 飯豊山	11/14-15 八ヶ岳
8/7-10 蝶・常念・燕(2)	8/27-30 燕・餓鬼岳(1)	9/19-23 朝日連峰	

藤沢山の会 報告=中河原昭夫 計82名(男39:女43)平均62歳

7/20-8/20 ペルー・ブラ ンカ山群ピスコ峰(3)	8/12 例会	9/3 奥多摩・本仁田山	歩く
8/5 運営委員会	8/13-16 戸隠山・高妻山 (夏山 合宿)(24)	9/5-6 教育部テント泊・仙 丈岳(5)	9/23 室内例会
8/6-17 インド・シスー 谷(2)	8/17-19 奥穂岳(2)	9/8 機関誌印刷	9/25-27 米子沢
8/9 塔ノ岳	8/18 奥多摩・御嶽山(5)	9/9 室内例会	9/26 花の観察会・明神 岳
8/10-11 エブリサシ岳	8/22-23 小川谷廊下(7)	9/12-13 ナルミズ沢(3)	9/28 入会説明会
8/11 機関誌印刷	8/26 例会	9/13 会沢・棒折山(6)	9/30 会沢・大山
	9/2 運営委員会	9/19 奥多摩むかし道を	

相模アルパインクラブ 報告:水村和也 計41名(男29:女12)平均52歳

8/3-8 小川山(39)	8/12-16 剣岳 ハコ峰Cフェー ス剣稜会ルート(2)	8/12-17 前穂高岳 奥又 白周辺(1)	沢(1)
8/8 表六甲(1)	8/8-16 小川山(1)	8/11-17 裏銀座(1)	8/21-23 東沢 釜の沢(3)
8/8-9 小川山(3)	8/14-16 小川山(1)	8/18-19 富士山(1)	8/22-23 小川山(3)
8/9 羊蹄山(1)	8/8-16 名寄見晴し岩・ 旭岳・能取岬の岩場(1)	8/14-20 小川山(2)	8/23 押出し沢(4)
8/9-12 北岳(1)	8/12-17 荒川三山(3)	8/22 モロクボ沢(2)	
8/8-12 双六谷(4)		8/21-23 東沢 東のナメ	
8/9-12 小川山(3)			

カモの会 報告:森谷準一 計64名(男42:女22)平均35.8歳

8/1 日和田(5)	8/8-11 白馬岳(1)	(2+4)	8/29-31 南紀・台高山脈 /池木屋山(3+10)
8/1 白山 荒島岳(1+2)	8/8 奥多摩(水根沢)	8/15 岩手山(1)	その他、個人山行記録多 数あります。 ヤマレコでご確認下さい。 http://www.yamareco.co m/
8/2 古賀志山/中尾根・ 東尾根(3)	(1+1)	8/22-28 八久和川(1+3)	
8/2-4 北岳パットレス第 四尾根(1+1)	8/8-9 小川山(6)	8/22-23 三ツ峠(6)	
8/3 秋田駒ヶ岳(1+1)	8/9-10 白馬大池~白馬 岳(2)	8/23 みずがき(カサメ リ沢)(3+1)	
8/6-12 新穂高 槍ヶ岳 鷲羽岳 雲ノ平 薬 師岳(1+2)	8/12 御岳(1+1)	8/23 中崎尾根(1+1)	
8/7 北岳(1)	8/13-16 剣岳(早月尾根) (7)	8/23-30 小川山(7)	
	8/13-16 剣岳(8)	8/29 小川谷廊下(3)	
	8/15-16 湯檜曾川本谷	8/29-30 奥穂高岳 前穂 高岳(1)	

やま+ 報告:栗田 彰 計11名(男8:女3)平均50歳

8/5 例会	8/22-23 槍ヶ岳(1)	9/20-23 南ア・地蔵尾根
8/10-12 南八甲田・岩木山	8/26 例会(9+1)	9/22-23 鳳凰三山
8/14-15 薬師岳(1+1)	9/5-6 やま+祭	9/30 例会
8/17-19 穂高連峰(2)	9/9 例会	
8/18-21 五竜から鹿島槍(1)	9/12-13 釜ノ沢	

2010年日本勤労者山岳連盟オリジナルカレンダーの申込み受け付け
10月の事務局長会議で集約して、全国事務局に申請する手はずです。
サンプルをご覧になりたい方は、JWAFのホームページへ。 事務局部会



登山時報 9月号 目次	小枝琢三 福井壽彦 10	専門委員会活動報告 32
マナスル登頂8163m 労山	シグナル「政治の夏」と大	事務局から 編集後記 34
全国連盟隊2009.04	雪の大量遭難 斉藤義孝 12	インタビュー ひと
ダイナミックカムチャッカ	新規加盟団体の紹介	江口幸太郎さん・愛子さん
海野一彦 海野美春06	山の会ささやま 18	塩澤良雄 35
第12回自然保護講座	ヤングクライマーズフォー	地元会員特選ミニガイド
足尾 浦添嘉徳 13	ラム/沢登り講習会	北海道・樽前山/藤本悦子
第3回西日本女性担当者交	後藤真一 19	岐阜・槍ヶ先/三鍋敏郎 36
流集会 吉野敦子 20	タカトリ今昔物語	ブックエンド『俺は沢やだ!』
<普段着の山> 山頂の祠は	古川純一 22	他 今泉奈穂子 他 38
檻の中 鈴木澄雄 03	山で気になるカンキョーの	あらかると「高さの影響(無
連載 クイズ地図読み迷人	話 菊地敏之 26	酸素登山)」 原真 39
村越真 宮内佐季子 08	連載 碧い南の島だより	会報えつらん室 後藤功一
きのこシーズンイン	雨宮 節 27	40
川原健一 09	JWAFクリック 28	オススメ山道具 ライトポー
野鳥との出会い コゲラ	全国連盟の活動 31	チ 笹原芳樹 42

県連のスケジュール

9月			10月			11月		
1	火	常任理事会	1	木	遭対部会	1	日	関東B自然保護集会(山梨) 第9回全国救助隊交流集会
2	水	登山リーダ養成学校机上講習	2	金		2	月	常任理事会
3	木		3	土		3	火	
4	金		4	日		4	水	登山リーダ養成学校机上講習
5	土	救助隊セルフレスキュー 関東ブロック役員交流会	5	月	常任理事会	5	木	
6	日	救助隊セルフレスキュー 関東ブロック役員交流会	6	火		6	金	
7	月	遭対部会/連盟news印刷	7	水	登山リーダ養成学校机上講習	7	土	岩場のセルフレスキュー講習 HCリーダ学校実技講習 岩場のセルフレスキュー講習
8	火	事務局長会議/連盟news発行	8	木		8	日	
9	水		9	金		9	月	
10	木		10	土		10	火	事務局長会議/連盟news発行
11	金		11	日		11	水	
12	土	登山リーダ養成学校実技講習	12	月		12	木	
13	日	定期理事会 登山リーダ養成学校実技講習	13	火	事務局長会議/連盟news発行	13	金	
14	月		14	水		14	土	全国自然保護担当者会議
15	火	全国理事会/救助隊運営会	15	木	HCリーダ学校机上講習	15	日	全国自然保護担当者会議
16	水		16	金		16	月	
17	木	HCリーダ学校机上講習	17	土	埼玉主管救助隊技術交流会 HCリーダ学校実技講習 埼玉主管救助隊技術交流会	17	火	全国理事会/救助隊運営会
18	金		18	日		18	水	
19	土		19	月		19	木	事務局部会
20	日		20	火	全国理事会	20	金	HCリーダ学校修了式
21	月		21	水		21	土	
22	火		22	木	事務局部会	22	日	
23	水		23	金		23	月	
24	木	事務局部会	24	土		24	火	
25	金		25	日		25	水	
26	土	HCリーダ学校実技講習	26	月	自然保護委員会	26	木	
27	日	HCリーダ学校実技講習	27	火		27	金	
28	月	自然保護委員会	28	水		28	土	第21回全国海外登山集会
29	火		29	木		29	日	第21回全国海外登山集会
30	水		30	金		30	月	自然保護委員会
			31	土	関東B自然保護集会(山梨) 第9回全国救助隊交流集会			

2009年度以降の全国的な規模の集会・会議予定

女性のためのヒマラヤ学校

6月23日～10月27日 6コース
(インドヒマラヤ、ヒマチャール州)

第17回全国ハイキング交流集会
MFAインストラクター養成講座

9月12日～13日 八ヶ岳・唐沢鉱泉
秋(未定)

第9回全国救助隊交流集会

10月31日～11月1日(富山県・登山研修所)

全国自然保護担当者会議

11月14日～15日(長野・信濃大町)

第21回全国海外登山集会

11月28・29日(千葉県検見川総合運動場)

第11回東日本女性登山交流集会

2010年1月23日～24日(東京・高尾の森)

第29回全国総会

2010年2月20日～21日 東京・晴海GH

第24回雪崩事故を防ぐための講習会

2010年2月12日～14日(中ア・宝剣岳、黒姫山)